

2006年度(2007年3月期)100周年を迎えるにあたり

2004－2006年度

中期経営計画の進捗と今後について

これからも笑顔のパートナー

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることがあります。

2006年5月17日

株式会社 山武

2005年度連結業績

(2006年3月期)

	2004年度 (2005年3月期)	2005年度 (2006年3月期)			前年度比増減	
	通期実績 (a)	当初計画 (2005.5.12)	修正予想 (2005.11.10)	実績 (b) (2006.5.16)	(b)-(a)	%
売上高	1,808 億円	1,880 億円	1,880 億円	1,883 億円	76 億円	4.2%
営業利益	94 億円	115 億円	123 億円	135 億円	42 億円	44.5%
売上比%	5.2%	6.1%	6.5%	7.2%		
当期利益	37 億円 ※1	78 億円	88 億円	98 億円 ※2	61 億円	164.2%

ROE 3.8%

9.3%

● 中期経営計画最終年度(2006年度)営業利益目標130億円 を1年前倒しで達成

- ・ 前年度比増収・増益
- ・ 売上げ、利益ともに計画を上回って達成。特に利益は計画を大幅超
- ・ 受注は前年度比186億円、10.5%増加の1,953億円を達成

※1 : 特別損失として、確定拠出年金への移行に伴い適格退職年金制度終了損35億円を計上。この移行が行われなかった場合のROEは6.1%に相当(参考値)

※2 : 東京事業所土地の一部売却益などにより、特別損益約17億円のプラスを含む

2006年度連結業績計画

(2007年3月期)

	2004年度	2005年度	2006年度	年度比較(増減)	
	(2005年3月期)	(2006年3月期)	(2007年3月期)	(b)-(a)	%
	実績	実績(a)	計画(b)		
売上高	1,808 億円	1,883 億円	2,300 億円	417 億円	22.1%
営業利益	94 億円	135 億円	160 億円 ※1	25 億円	18.4%
売上比%	5.2%	7.2%	7.0%		
当期利益	37 億円	98 億円	90 億円	-8 億円	-8.1%

ROE

3.8%

9.3%

7.9%

(約11億円、15%)※2

【参考値】

6.1%

7.5% ※2

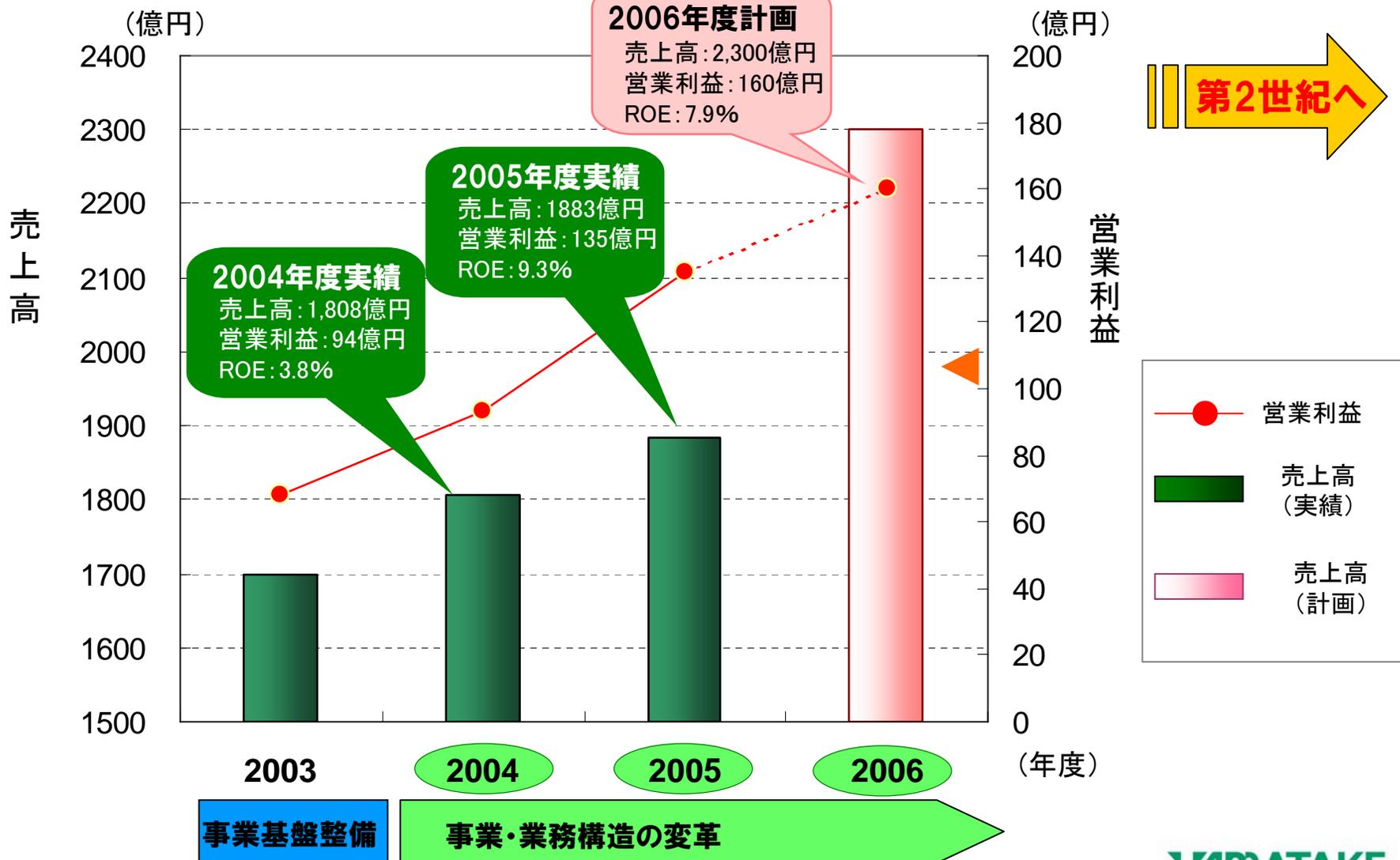
● 金門製作所との協業等を通して中期経営計画 (2004-2006年度) 目標を上回る事業成長をめざす

- ・ 中期経営計画目標売上高2,000億円、営業利益130億円を大きく上回る
売上高2,300億円、営業利益160億円を最終年度目標として設定

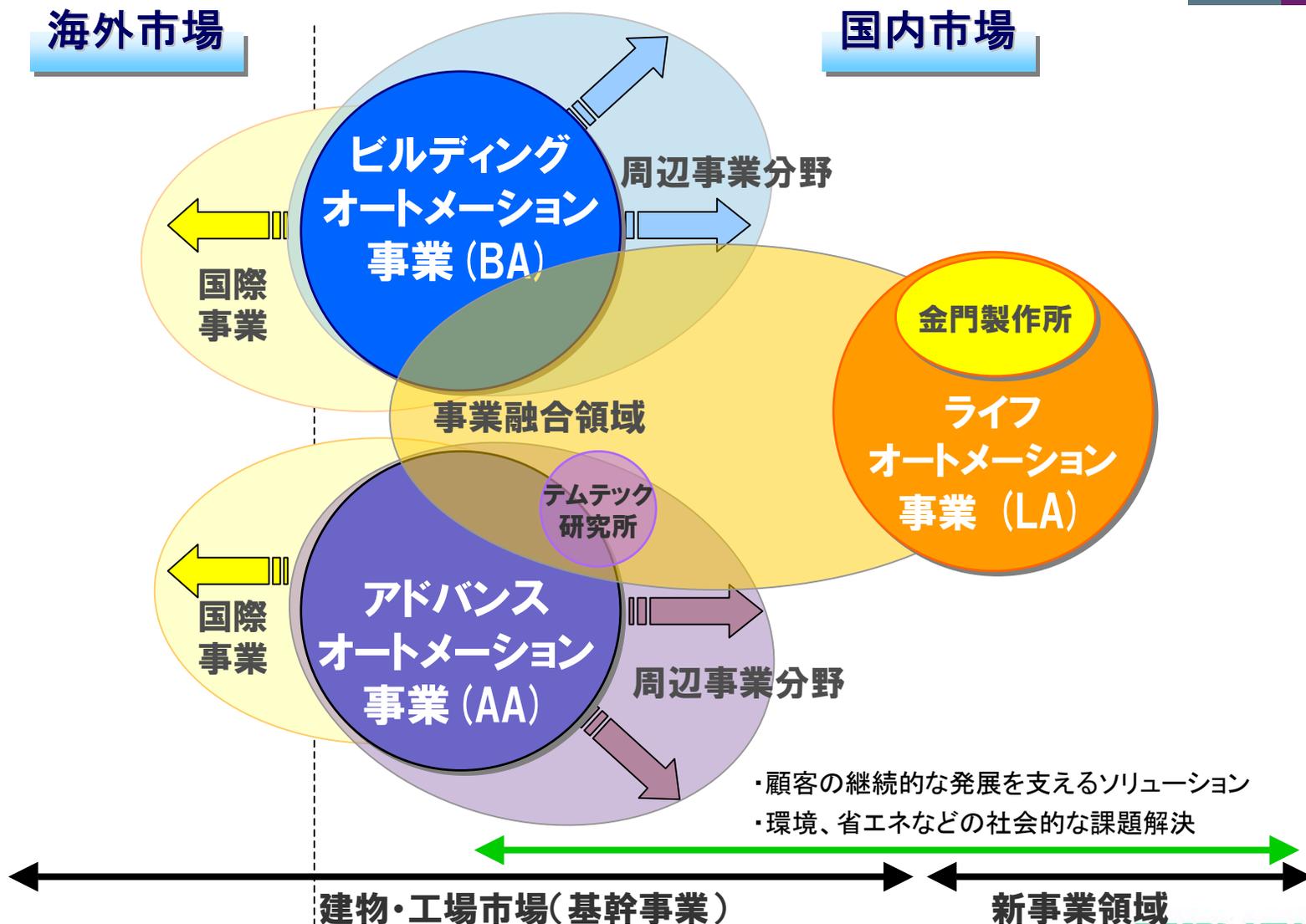
※1 : 金門製作所の連結に伴う連結調整勘定の償却費用を計上

※2 : 特別利益に東京事業所の土地一部売却、有価証券売却益を計上しなかった場合のROEおよび2006年度当期利益増加分

2004-2006年度 中期経営計画目標



事業構造の変革と領域拡大



ビルディングオートメーション事業

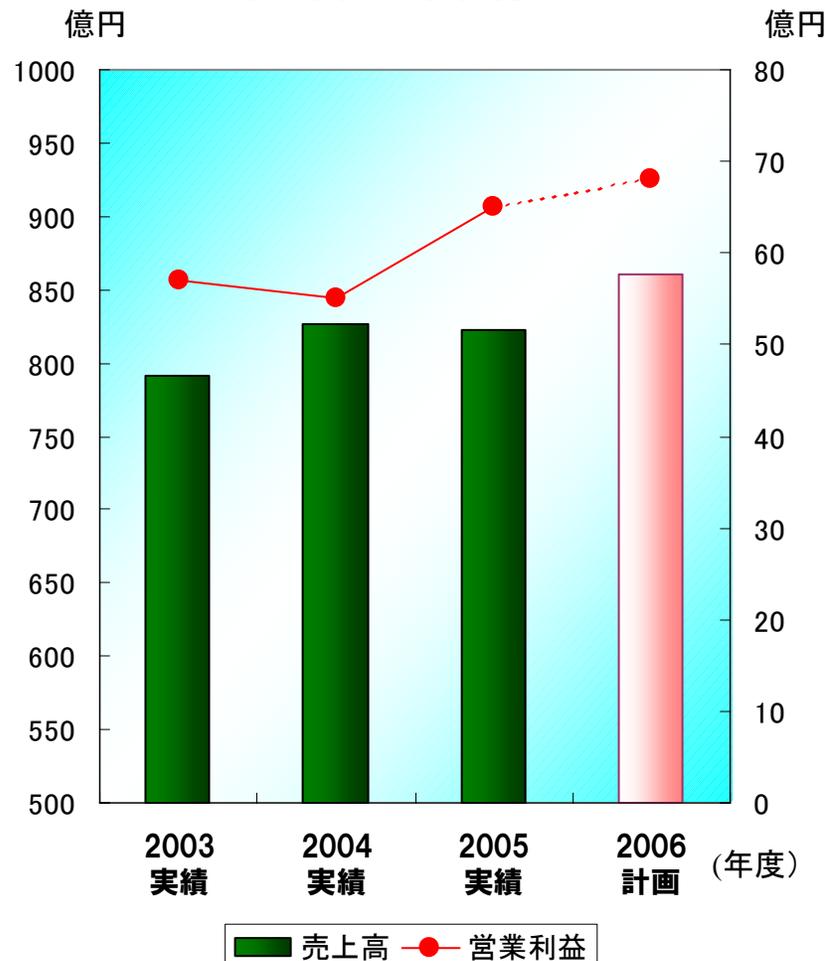
【事業環境と施策】

- ✓ 新設建物市場では2005年度大きく落ち込んだオフィス物件が回復。工場物件は引き続き好調
- ✓ 改正省エネ法施行などにより、省エネを機軸としたソリューション事業機会が拡大
- ✓ 個人情報保護法施行により、オフィス・工場等におけるセキュリティニーズが高まる

- ▶ **高機能、高利益製品の開発・投入による収益・競争力強化**
- ▶ **総合エネルギー管理サービス(ESCO事業)を中心とする既設建物事業の拡大**
- ▶ **AA事業※との連携による工場向け事業深耕**
- ▶ **製品ラインナップ強化によるセキュリティ事業の拡大**

※ AA事業：アドバンスオートメーション事業

売上高・営業利益



アドバンスオートメーション事業

【事業環境と施策】

- ✓ 積極的な設備投資が2006年度も継続
- ✓ 製品の品質トラッキング、プラントの安定操業といった安全・安心ニーズが増大
- ✓ 半導体関連材料など高付加価値製品への投資が拡大

▶ プロダクト事業を更に拡大

- － 山武オリジナル技術による事業展開

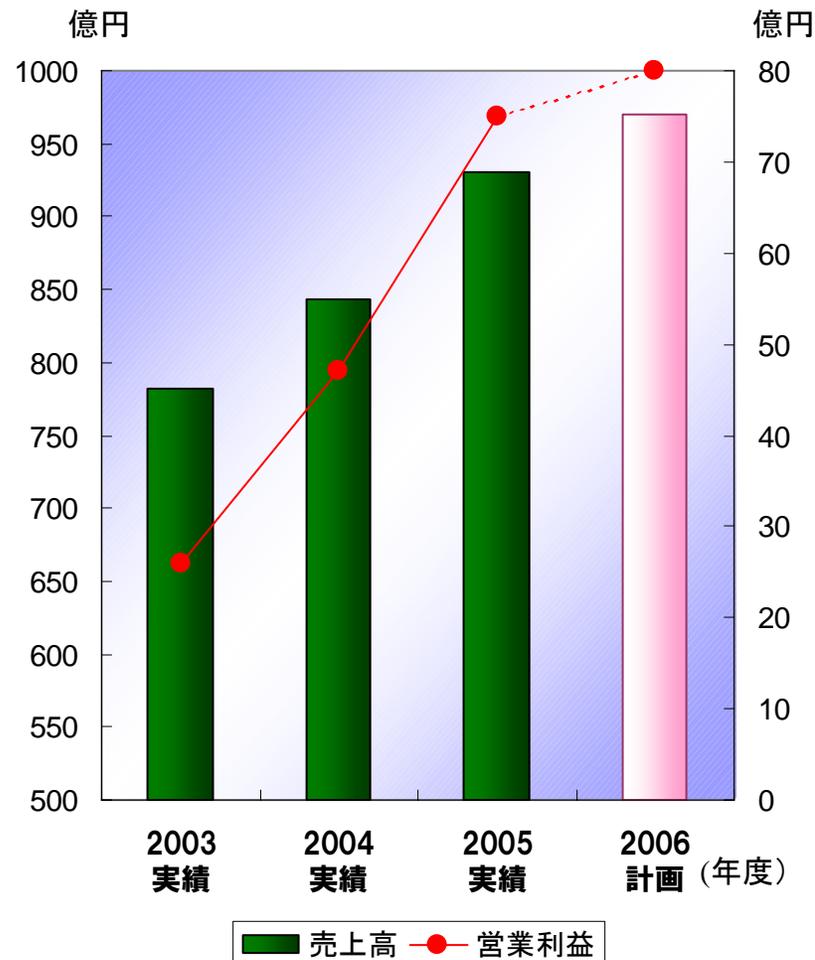
▶ 海外での更なる事業拡大

- － 中国・アジア地域に力点をおく

▶ 収益構造の改革を継続

- － 高利益製品へのシフト、業務プロセスの変革、原価改善 等

売上高・営業利益



ライフオートメーション事業

金門製作所を加え第3の柱としての事業基盤を確立

▶ 健康福祉事業

- 介護保険制度や健康法改正に対応した事業領域の拡大(グループホーム、介護・疾病予防、夜間対応型訪問看護等)

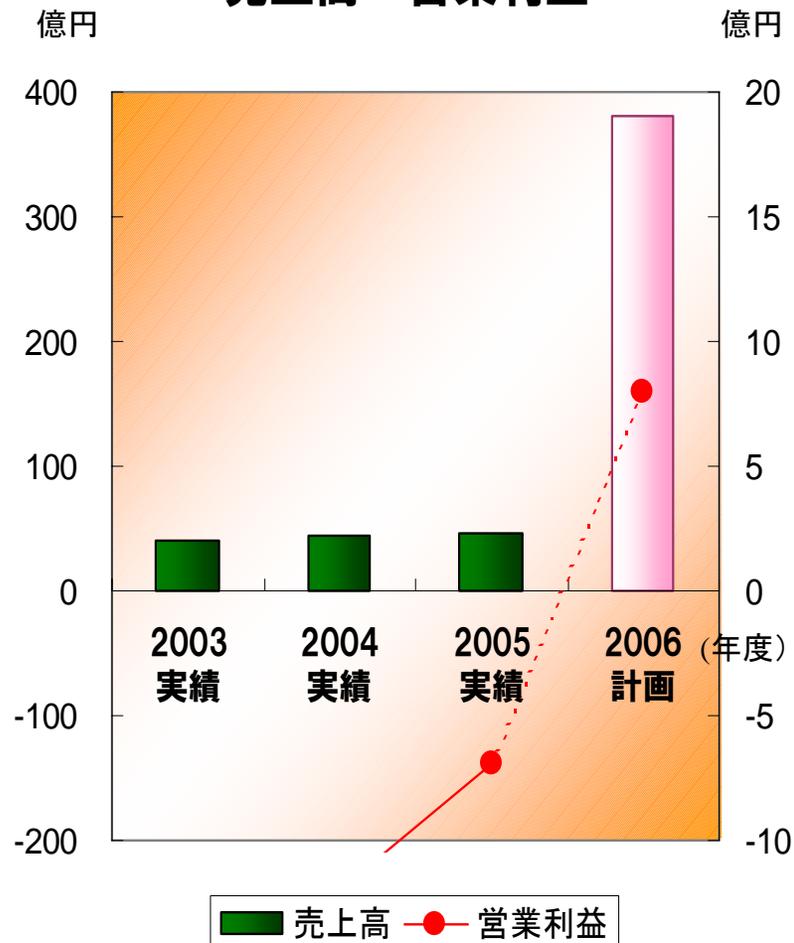
▶ ライフラインの計量・計測事業事業

- 新製品(流量計、計量計)の開発・投入
- 金門・山武のシナジーによる提案力と提案範囲の増強

▶ 独自技術・協業による事業の開拓

- 都市環境防災、環境リサイクル事業等の拡大
- 新世代DNAチップによる事業探索など

売上高・営業利益

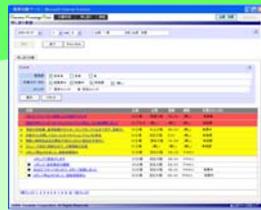


* 2006年度より金門製作所を連結

独自技術・新製品による商品力強化

ソリューション・サービス

MainSTEP
(操業知識ベース
Operation Knowledge
Base)



介護予防・疾病予防支援
サービス「すこやか生活」

システム、
コントローラ

Savic-net FX 海外版
Savic-net FX セキュリティ



ライフオートメーション事業開発
のための製品・技術の投入

センサー

ビルディング
オートメーション
システムの強化

冷却塔コントローラ
ミスコン・プラス



デジタルマスフロー
コントローラ
CMQ-Vシリーズ



高感度DNAチップ
および自動合成装置

電気容量式
湿度センサー



アクティブ・ミニ
ファンコイル用比例弁



積算熱量計



デジタルファイバセンサ
HPX-AGシリーズ

アドバンスオートメーション
事業向けプロダクト商品
の強化

業務構造の变革

企業風土と事業基盤の变革

各業務機能の創造的協働による 生産性・課題解決能力の向上

- 業務の構造化・可視化
- 集中・融合(地理、機能)

営業・スタッフ機能

- ▶ スタッフ生産性向上、経営戦略企画機能・経営管理機能強化、統合
- ▶ カンパニー間協業促進によるシナジー創出・受注拡大
(スタッフ業務改革、本社機能移転、首都圏営業機能統合)

研究開発・エンジニアリング機能

- ▶ 研究・商品開発・エンジニアリング機能の連携・強化による商品開発力強化、事業展開迅速化
(山武技術センター:2006年10月完工予定)

山武技術センター(完成予想図)



生産機能 (生産拠点の統合・再編)

- ▶ 技術・製品別、機能別生産体制への転換による「個客」要求対応力、コスト、スピードの実現
(国内生産体制再編:2007年終了予定、
中国2工場増築:深圳2006年10月操業開始予定)

大連増設工場(竣工式)



2005年度配当と2006年度配当予想

一層の株主還元を進めるべく、2006年度年間配当は普通配当を10円増配予定

	(中間)		(期末)		(年間)
2006年度 (予想)	25 円	+	25 円	=	50 円

普通配当を年間で10円増額

2005年度 (計画)	20 円	+	(20+10) 円	=	50 円
-------------	------	---	-----------	---	------

※普通配当20円、記念配当10円

配当の推移

	2003年度 (実績)	2004年度 (実績)	2005年度 (計画)	2006年度 (予想)
	年間	年間	年間	年間
1株当り配当金	14.0 円	23.0 円	50.0 円	50.0 円
普通配当	14.0 円	23.0 円	40.0 円	50.0 円
記念配当	0.0 円	0.0 円	10.0 円	0.0 円
配当金額	10.3 億円	16.9 億円	36.8 億円	36.8 億円
株主資本配当率	1.1%	1.7%	3.3% ※1	3.2%
配当性向	31.8%	45.6%	37.6% ※2	40.9%

※ 1: 普通配当 2.7% + 記念配当10円分 (0.6%)

※ 2: 普通配当 30.0% + 記念配当10円分 (7.6%)

* 株主資本配当率: 配当総額 ÷ 株主資本

* 配当性向: 配当総額 ÷ 当期純利益

山武の2世紀に向けて

